

Blank label area with a small mark at the bottom.



藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

藤原の御代に於ては、
藤原の御代に於ては、

Handwritten text at the top right of the page, possibly a title or header.

Handwritten text in the upper right section, including the characters '女房' (Ninpo).

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the lower right section.

此等の事は、（以下省略）

此等何れも、（以下省略）

此等何れも、（以下省略）

此等何れも、（以下省略）

此等何れも、（以下省略）

此等何れも、（以下省略）

...
...
...
...

雷家相の末代は長門の太守尉...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

伊
同
口

体一花

人々く、或は、今、是に、は、井、比、と、云、ふ、事、は、
人、ら、の、事、に、

の御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

... 御抄の如く... 御抄の如く

御前上覧の事

ナ

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

御前上覧の事

天守

中一

おろろ

やわ

左

伊

流

そ

平

常

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

おはなれは... さいはる...

ふし海に捨る... 海に捨る...

さし... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

は... 海に捨る...

てはけしむるよし

のりおのりし一曰く陸奥の志の事なるは

たゞしとて志の事なるは

世目ありてはなれど追風をひく

今一矢も名をまてさく道に

大い死一太いぬい妙文の事の時旅館

妙といひ代一交の極なるは

釋樓あり妙文の事の時伊勢と

妙文の事の時伊勢と

備所と付添すりて入る

かゝる國は河海に接する

まのりしは

まのりしは

向うは

向うは

向うは

向うは

と子里介一と子里介

と子里介一と子里介

と子里介一と子里介

と子里介一と子里介

と子里介一と子里介

と子里介一と子里介

うきうき海田のほろい新い海田に入海しつゝ

おおくのやうな竹とよしの袴ありしはかきく

おもしろいものやういふのやういふかきり平箱

直衣袴費の地ふすしな林の直衣年齢と

冬は白袴費と年齢ととりてりさき

さゆらりうららら一橋の心装束流罪の

はたし細くまをうら

うきうき海田のほろい新い海田に入海しつゝ

おもしろいものやういふのやういふかきり平箱

直衣袴費の地ふすしな林の直衣年齢と

冬は白袴費と年齢ととりてりさき

さゆらりうららら一橋の心装束流罪の

はたし細くまをうら

うきうき海田のほろい新い海田に入海しつゝ

おもしろいものやういふのやういふかきり平箱

直衣袴費の地ふすしな林の直衣年齢と

冬は白袴費と年齢ととりてりさき

さゆらりうららら一橋の心装束流罪の

はたし細くまをうら

うきうき海田のほろい新い海田に入海しつゝ

おもしろいものやういふのやういふかきり平箱

直衣袴費の地ふすしな林の直衣年齢と

冬は白袴費と年齢ととりてりさき

あはれなる心にて
おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

おぼしめされし
おぼしめされし

かどい... 一ヤ... 文部... 新... 一...

か... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

あ... 一... 文部... 新... 一...

新 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

白樂天詩遺愛寺鐘歇樹聽

樹色蒼蒼石色青 一白樂天詩遺愛寺鐘歇樹聽

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

寺在鐘山北 一我子の成るふ由さる目よ及此

馬長身並申 一葉

菅家以下 台紙の情 天明名の録に云

得長と對して作らばゆく 詩

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

とて待て 又節の

七條

史記の事は高致意を以て詳述す

以故持其款於二世曰信二世曰曰義相誤非謂庶為官也

左右言、きし趙高乱とありきとと海氏の事、

ろりてとありきとと海氏とてか、守人、

謝と承せとてし、しとて今、ゆゑの事、

しとてしとてし、海氏の事、

しとてしとてし、海氏の事、

系對、しとてし、海氏の事、

しとてしとてし、海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

海氏の事、

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

しんがく 4

禁深紅の帳奏議云但後知後輕益未及大

急者不在制良まと黄わららといはしし河海と意をめ

御文といはれらあやりゆと又二平あらひのめらる

情をとりららとありまぬしくんとらけの同く

ときのく一彈基具りしくしのこといふこと

めりりて束言とち又くもやりしりととしら

くはお目としとりのもとしとう一具は心いはれた

高いとりのあります一お世とうとかくともありし

多しとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

とうとりのあります一お世とうとかくともありし

天の御心... 御心... 御心... 御心...

天の御心... 御心... 御心... 御心... 御心...

天の御心... 御心... 御心... 御心... 御心...

天の御心... 御心... 御心... 御心... 御心...

天の御心... 御心... 御心... 御心... 御心...

天の御心... 御心... 御心... 御心... 御心...

肺大倉源歩

續漢書

志云三月上巳日宮人置御衣

於東流中三月三日の... 御衣... 御衣...

御衣... 御衣... 御衣... 御衣... 御衣...

御衣... 御衣... 御衣... 御衣... 御衣...

御衣... 御衣... 御衣... 御衣... 御衣...

御衣... 御衣... 御衣... 御衣... 御衣...

御衣... 御衣... 御衣... 御衣... 御衣...

夢
廣
法

III X
3
30